

かなちゃんのこと

大阪市教育局委員会 第十一回（平成二十年度）「はーと&はーと」絵本原作コンクール入選作品

三年生になって一週間たつというのに、かなちゃんはまったくおしゃべりしません。先生によばれても、へんじもしないのです。

「かなちゃんと話したことある？」

わたしは、かなちゃんと二年生の時同じクラスだったさくらちゃんに、聞いてみました。

「一年の時も二年の時も、ずっと話さなかったよ。

一度も声聞いたことないもん。」

「えっ、ずっと？」

わたしは、とてもふしぎでした。

ある日、ピアノ教室のかえりに、楽しそうな女の子の声が聞こえてきました。

「おかあさん、見て見て〜！」

かなちゃんが、おうちの庭でフラフラプをして

遊んでいたのです。いつもとまったくちがうかなちゃんに、わたしはビックリしました。

「かなちゃん。」

わたしは、かなちゃんに声をかけました。でもかなちゃんは、わたしを見ると、お家の中に入っていました。

次の日学校で、わたしはかなちゃんに聞いてみました。

「かなちゃん、どうしていつもしゃべらないの？」

「・・・」

かなちゃんは、だまっただま。

「かなちゃん、きのうしゃべってたじゃない」

「・・・」

それでも、かなちゃんはだまったまま。

だまっているかなちゃんに、わたしはイライラしてきました。

「かなちゃんに、何聞いてもむだだよ。ぜったいやべらないから。それより、いっしょに外で遊ぼうよ。」と、さくらちゃんが言うてきました。

「へんな子」

わたしはそう言うて、さくらちゃんと校庭へ遊びに行きました。

その日の夜、わたしはおかあさんに、かなちゃんのことを話しました。おかあさんは、しんけんな顔で言いました。

「かなちゃんは、わざと話さないんじゃないんで、

どうしても話すことができないんだと思うよ。

おかあさんのクラスにも、そういう子がいたの。

かなちゃんも自分でどうして声が出ないのか、わからないんだと思うよ」

おかあさんは、学校の先生をしています。

「だれだって、大きなぶたいに立つと、ドキドキするよね？かなちゃんには、きつと学校ぜんぶが、そんなふうにかんじるのかもしれないね。かなちゃんがドキドキしないように、かんがえてあげればいいと思うわ。」

それからは学校で、かなちゃんのことを、気になつてしかたがありませんでした。かなちゃんは、いつも自分のせきに、ただじーっとすわっていました。

じゅぎょう中も休み時間も。トイレはがまんしているのかな。気分がわるい時がまんしているのかな。声が出ないってこまるよね。みんな気づかなくてこまるよね。

かなちゃんに、この前ひどいことを言ってしまった……。わたしは、かなちゃんのこころの中をかんがえると、むねがチクンとなりました。

昼休みに、わたしはかなちゃんに、そっと聞いてみました。

「かなちゃん、この間ひどいこと言ってごめんね。」

かなちゃんは、コクンとうなずきました。

わたしは、かなちゃんが答えてくれて、うれしくなりました。かなちゃんといっしょにいたいと思いました。

「かなちゃん、いっしょに外で遊ばない？」

でも、かなちゃんはだまっただままでした。

「いっしょにあそぶのいや？」

かなちゃんは、首をよこにふりました。

わたしは、かなちゃんがお家の庭で、フラフラプをしていたことを思い出しました。

「かなちゃん、いっしょにフラフラプしようか？」

かなちゃんは、すぐにうなずきました。少しわらっているように見えました。

わたしは、うれしくなりました。かなちゃんのこころの中が、少し見えたような気がしました。

「じゃあ、今からフラフラプをかりにいこう！」

かなちゃんとわたしは手をつないで、いっしょに走って行きました。